

opack^{オーパック}めーる

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University



<http://www.opack.jp/>

年頭にあたって

財団法人九州大学学術研究都市推進機構 理事長 石川 敬一

明けましておめでとうございます。

当機構が平成16年10月に設立され、早いもので2年が経過しました。この間、九州大学学術研究都市構想の実現を目指して、さまざまな取組みを展開してまいりました。これもひとえに、皆様のご協力によるものと感謝申し上げます。

さて、九州大学においては平成17年10月に、伊都新キャンパスが開校し、工学系の第一陣が移転しました。

さらに、昨年10月には、工学系の残りの第二陣が移転し、4,900人の学生・教職員が活動する場となり、新キャンパス周辺の地域は大きく様変わりしつつあります。新キャンパスへの移転により、これまでの施設の狭隘化や老朽化、航空機の騒音等の諸問題から解放され、新しい環境でより一層活発な研究成果が期待されます。

伊都新キャンパス誕生とともに、当機構においては、東京でのナノテク、バイオ、半導体、水素に関する各種セミナー開催や、「超高压電子顕微鏡フォーラム」にみられる大学設備の開放、また、大手や地場の企業訪問や、企業を招いての現地見学会などを行ってまいりました。

さらに、国公設研究機関や企業研究所等の進出に向けた誘致活動を、産学官の連携を強化しながら精力的に進めています。

今年は、これまで以上にこれらの諸活動を活発化し、学術研究都市づくりを前進させてまいります。

国内経済にも明るい兆しが見え始めておりますが、中国をはじめとする中進国の経済及び科学技術の分野における発展は著しく、これらの国々と競っていくため、将来、学術研究都市は、より重要な役割を果たすものと予想されます。

もとより、学術研究都市づくりは永い期間を要する巨大プロジェクトであります。自治体が進めるまちづくりと連携し、更に、皆様方のご支援、ご協力を賜りながら、構想の実現に向け力を尽くしてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



整い始めた産学連携の舞台 ～九州大学学術研究都市の現在～

九州大学が福岡市西区元岡・桑原地区、前原市、志摩町にまたがる伊都新キャンパスに統合移転を開始して1年3ヶ月が過ぎました。豊かな歴史と自然に囲まれた新しい校舎では、先陣をきった工学系の4,900人の学生と教職員によるキャンパスライフが始まっています。また、平成21年4月には六本松地区から移転する全学教育、比較社会文化、言語文化他の開校も予定されており、移転対象の6割、約10,000人のキャンパスとなります。

キャンパス最寄りのJR九大学研都市駅も開業し、福岡国際空港から新キャンパスへは都心部のJR博多駅や天神を経由して鉄道とバス乗り継ぎで約50分、博多

駅や天神からは高速道路経由の直行バスも運行されており、関東、関西方面からのお客様をご案内すると「本当に近くて便利ですね」という言葉をよくいただきます。

また、自治体による道路整備をはじめとしたまちづ

くりや、民間事業者による新しい住宅や学生マンションなどの整備も着々と進み、さらに昨年4月には九大学研都市駅前に大規模ショッピングセンターが開業、続いて11月末にも志摩町に敷地面積8haの大規模ショッピングセンタ



都市生活機能の整備が進むJR九大学研都市駅周辺（福岡市伊都土地区画整理事業）

ーが開業し、学術研究都市全体の生活利便性が飛躍的に向上しています。

このように順調に進んでいる学術研究都市づくりに

において、産学連携や企業・研究機関の立地に目を移すと、企業の方々からは、「進出するための具体的な土地や施設がよく分からない。」という質問をよくいただきます。そこで、地元自治体等による最新の企業立地インフラの整備状況を簡単に説明します。

福岡市の伊都土地区画整理事業(130ha)では、昨年10月に保留地分譲も始まり、九大学研都市駅周辺を中心にマンションや商業施設、事務所ビルなど、企業立地に必要な環境が急速に整いつつあります。また、大学に隣接した元岡地区では16haの土地地区画整理事業が予定されており、学術研究都市の「顔」「シンボル」となる大学の中心～タウン・オン・キャンパスのフロント地区として、産学連携の多様な機能の導入が期待されています。そのエリア内で既に造成工事に着手したのが、平成20年春のオープン予定している福岡市産学連携交流センター(仮称)です。レンタルラボ、レンタルオフィス等を備えており、大学の研究者や、大学との共同研究を進める企業、ベンチャー等の入居を見込んでいます。

前原市の西九州自動車道前原インターチェンジ付近では、前原市による前原IC地区A産業団地(11ha)が平成20年4月の分譲を、また福岡県による前原IC南地区リサーチパーク造成事業(23ha)が平成22年度の方譲を目指して進められています。大学と連携し研究・開発を行う企業の受け皿としての期待がかかります。また、新キャンパスの南ゲート予定地に隣接し



民間事業者による学生向け住宅施設の整備
(前原市泊カツラギ地区)

た泊カツラギ地区では、地域と大学が連携する「門前町」の計画が進んでいます。昨年5月に、学生住宅、便利施設、研究施設などの土地利用が図られる地区計画(24ha)を決定し、その第一弾として3月のオープンを目指し、民間事業者による「九州大家族CLUB」という学生の意見を取り入れた新しいタイプの学生寮の建設が進んでいます。

志摩町の松隈工業団地(14ha)は、学術研究都市で唯一、既に工場が立地している民間の工業団地です。現在5社の工場が稼働しており、土地価格も安く、今後は大学関連企業・工場等の立地を促進する予定です。



松隈工業団地(志摩町)

二丈町は、西九州自動車道沿線に工業団地を多く計画しているのが特徴です。武工業団地(1ha)、上深江工業団地(3ha)はいずれも研究施設や産業施設の受け入れ準備が整っており、九州の高速道路ネットワークを十分に活用できるのが魅力です。



武工業団地(二丈町)

以上のように、広大な地域に広がる九州大学学術研究都市では、様々なタイプの企業立地用地や施設の整備が進められています。

ようやく見え始めた産学連携の舞台を是非一度覗いていただければ幸いです。



活動報告

地元福岡で将来のスーパーコンピュータとシミュレーション科学シンポジウムを開催

平成18年10月27日(金)、ホテルオークラ福岡で、「将来のスーパーコンピュータとシミュレーション科学シンポジウム」―未来を拓く第3の科学―を開催しました。当日は、地元企業を中心に、191名の皆様にご来場いただきました。

会場にお越しいただいた皆様には、スーパーコンピュータが、我々の生活の中で将来どのような利用がなされていくのか、各講師による説明や実際のシミュレーション画像を通じて、実感していただけたものと思います。



パネルディスカッション

「九大学研都市現地説明会」を開催

九州大学学術研究都市の整備が進む中、企業・研究所の新設及び移転の候補地としていただくため、11月9日・10日に、これまでの企業訪問やセミナー等において、関心を持っていた企業15社を招待し、「九州大学学術研究都市現地説明会」を開催しました。

実際に現地を見て立地環境の良さ等を実感してもらうため、9日は、伊都

土地区画整理事業、元岡土地区画整理事業・福岡市産学連携交流センター(仮称)整備予定地や、ほたる開発予定地(前原IC地区、前原北部地区、松隈・松国・武・上深江工業団地)をバスで案内し、開発計画やまちの魅力等について、各自治体担当者からPRしていただきました。夕方からは、産学官の関係機関にも参



現地説明会(11月9日)

加いただき、懇談会を開催しました。各テーブルでは熱心に情報交換が行われ交流が深まりました。10日は、九州大学伊都新キャンパスを案内しました。まず、ビッグオレンジで、九州大学の移転に関する説明を行い、続いて水素ステーション・水素利用技術研究センター・超高压電子顕微鏡を視察してもらい、各施設の概要や研究開発プロジェクトについて直接教員から説明していただきました。

今回の現地説明会は、参加企業に大変好評で、懇切丁寧な説明で熱意が伝わったという感想を多くいただき、今後も継続していきたいと考えています。

「福岡水素エネルギー社会近未来展2006」、 「福岡ビジネスフォーラム2006」に出展

11月20日から23日まで、西日本総合展示場（北九州市小倉北区）新館において開催された「福岡水素エネルギー社会近未来展2006」に出展しました。

この未来展は、産学官が一体となった日本有数の燃料電池・水素分野の専門見本市であり、全国各地から来場された燃料電池・水素関連分野の技術者・研究者に、九州大学学術研究都市の魅力を紹介するとともに、出展企業の技術・情報の収集を行いました。

また、11月28日、マリメッセ福岡において開催された「福岡ビジネスフォーラム2006」に出展しました。ここでも九州大学学術研究都市の紹介と、様々な業種の出展企業の情報収集・交換を行いました。



福岡水素エネルギー社会近未来展展示ブース



行事予定

「FC EXPO2007」に出展

2月7日（水）から9日（金）まで東京国際展示場（東京ビッグサイト）において開催される「FC EXPO2007」に出展します。

この催しは、燃料電池業界世界最大の国際専門展であり、国内はもとより、世界各国の主要企業が一堂に出展し、国内外から多数の専門家が来場します。



<http://www.fcexpo.jp/>

第2回「未来化学創造センターシンポジウム」を開催

平成19年1月25日（木）メルパルク大阪において、昨年の東京に引き続き、第2回未来化学創造センターシンポジウムを開催します。

九大物質科学工学部門及び未来化学創造センターの教員による講演とポスター発表を行います。会場では、教員の方と、参加して頂きました皆様と積極的に議論が行える場を設け、情報の発信とともに、今後のコラボレーションへと発展する種となるシンポジウムです。

開催案内のホームページは、
<http://www.cstm.kyushu-u.ac.jp/future/news/061126.html>

第1回「九州大学学術研究都市情報交流セミナー」を開催

研究・教育を通じた社会貢献を目指す九州大学の活動と、大学の知識や研究成果を地域活性化へと導く経済界や地元自治体の取り組みなど、九州大学学術研究都市をめぐる最新情報を紹介するセミナーを、平成18年2月9日（金）午後3時よりホテルレガロ福岡で開催します。セミナーについての詳細は、当機構（企画広報グループ）までお問い合わせ、又は、ホームページでご確認下さい。

大学を核とする学術研究都市づくり～オウル大学～

今回は、フィンランドのオウル大学を中心とした研究都市づくりをご紹介します。1959年設立のオウル大学は、学生約16,000人、教職員約3,000人が在籍し、工学部、医学部、教育学部など6学部を擁する世界最北端の総合大学です。研究は、9つの研究・教育分野があり、なかでも電気電子工学、医療技術やバイオ等の研究が、学内の横断的かつ産学官の緊密な連携により盛んに進められています。とくに電子工学部門や病院部門等では、大学内外に跨るCOEが形成され、IT技術を活用した医療やバイオ技術等のクラスター化が進められ、多核クラスターとして成長を続けています。

クラスター形成では、オウル大学に1965年設立の工学部が牽引して進め

られ、国の政策も相まって、1980年代には大学が立地するオウル市（ヘルシンキ市より800km北側）にITクラスターの全容が現れ始めました。この間、初代工学部長のオックスマン教授等の大学、産業界等の関係者の先見的な考えがクラスター形成に大きく影響し、その後のクラスター施策策定の原点となっています。市

内には、オウル大学に隣接した学官出資（現在は株式会社）のインキュベーション施設や、分散する同様の施設が立地し、日本を含む世界各国の通信業や多様な企業が集積し、横断的なプロジェクトが進められています。

現在、クラスターにおいては、ICT技術を他分野に適用・活用する応用研究や事業化が、世界の携帯電話メーカーNOKIAをはじめとした企業群により行われています。



オウル市ITクラスター
（オウル市パンフレットより転載）

自治体からの報告

Report from municipality

志摩町

田園居住のまちづくりの推進

志摩町は、平成16年度に「田園居住のまちづくり条例」を制定して、豊かな自然環境を活かし、生活環境と調和したまちづくりを推進しています。

その中で活性化ゾーンとして位置付けられた開発区域(居住系、研究系、工業系、レク系)を「分散型地域核(ほたる)」とし、住居系については家庭菜園付きの一戸建住宅など、ゆとりある優良田園住宅の推進を図っています。

「松隈工業団地」

「分散型地域核(ほたる)計画」の候補地として、町の中心市街地から北東へ2km、九州大学新キャンパス西側に隣接する松隈・田ノ浦工業団地があります。

平成14年の都市計画の線引き時に地区計画区域に指定し(約14ha)、既に整備されている区域、約2.7haには工業系の企業5社が稼動しています。

残りの区域についても、造成工事が進行中であり、着々と受け入れ態勢を整えています。

芥屋海水浴場「快(かい)水浴場百選」

志摩町は糸島富士と称される可也山を中心に、昔

ながらの田園風景と玄界灘に沿った美しい海岸線を有しています。

芥屋海水浴場からサーフィンの若者達でにぎわう桜井二見ヶ浦までの海岸線は美しい夕日スポットとしても有名です。

そしてこのほど、芥屋海水浴場が「透明度が高く、遠浅で安全」と高い評価を受け、環境省の「快(かい)水浴場百選」に選



幣(にぎ)の浜

ばれました。同海水浴場は平成13年度に、同省から「日本の水浴場88選」にも選ばれており、これからは更に環境保全やPRに努めていきます。

大規模複合商業施設ついに開業

昨年の11月末に大規模複合商業施設が志摩町役場横にオープンしました。これだけ大規模な施設の開業は本町始まって以来で、生活利便性が向上し、「ほたる計画」実現の推進、町全体への波及効果が期待されています。

シリーズ 糸島の自然と歴史・文化

第7回

浮嶽神社と平安仏像3体

伊都キャンパスの向う正面には県境をなす筑紫山脈の一大パノラマが広がります。西方の二丈町にいくに従って山並みが次第に低くなりますが、一際高いのが浮嶽(805m)です。昔、玄界灘の荒波を航海した渡来人や遣唐使もその山並みに浮かぶ筑紫富士と詠われた端正な山容を目にしたことと思います。その麓に浮嶽神社があります。



浮嶽神社

は静かなお顔立ちが印象的です。3体とも当時吹荒れた廃仏毀釈により粗末に扱われ、両腕の肘から先が消失しています。その為、如来像のご尊名は残念ながら判りませんが、そのお姿に接するとさまざまな煩惱を癒してくれるものがあります。

浮嶽神社から1km下には、弘法大師が靈力によって噴出させたという古い言伝えのあるまむし湯が

あります。「ヒラクチ(まむし)に咬まれたら吉井の湯に行け」と言われた靈験あらたかなお湯にゆったりと浸かり、日頃のお疲れを癒されたら如何でしょうか。



平安仏像3体

(ご案内と写真提供:糸島ふるさとガイド)